

沈撃綱横4 乱波大

紙相撲新聞

第164回本場所
四～五日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

4横綱、2日間で8戦1勝7敗

千代鈴まさかの3連敗で休場必至

〔第百六十四回本場所四日目～五日目〕

寒波が到来し寒風覚めやらぬ中、四日と五日目が行われ、練馬国技館でも大寒波が吹き荒れて大荒れの2日間となった。

4横綱の2日間の勝敗はなんと1勝7敗。白星は四日目の若ノ嶋の1勝のみで、三日目まで3戦全勝だった春ノ翔と大神楽はともに連敗、優勝候補筆頭の千代鈴も平幕相手に連敗という散々な結果となった。

千代鈴は五日目を終えて1勝4敗となり、休場という話も挙がっている。休場となれば初土俵以降初のこと。



↑五日目 既に3敗を喫している千代鈴。合口のいい白閃光に勝って流れを引き戻したいところだったが、最初の寄りを回り込まれると引き落しに敗れた。

↓五日目 4連勝の鬼ヶ嶽は動きも軽く、大神楽の寄りをタイミング良くかわした。大神楽は二日連続で深差しの悪い癖が出た形だ。



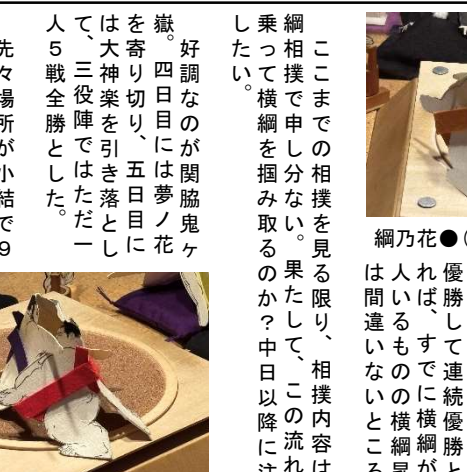
新横綱の場所であり、捲土重来を期して臨んだ本場所は初日から3連勝と復調したかと思えたが、大神楽だった四日目に小結綱乃花に、五日目に関脇鬼ヶ嶽とともに引き落とされて連敗。



宇治家●(寄り切り)○越境山

優勝争いは五日目を終えて、関脇鬼ヶ嶽と前頭14枚目の越境山が5戦全勝。これを1敗で大関西神門、平幕の勝ノ川、宇治家の3人が追う展開となった。

横綱若ノ嶋は初日に夢ノ花に敗れたものの連勝して迎えた四日目は、今場所千代鈴、西神門の春日根部屋勢に勝って勢いのある若佑と対戦。初顔だけに心配されたが、左差しからの力強い相撲でこれを退けた。



鬼ヶ嶽○(寄り切り)●夢ノ花

三日月を終えて1勝2敗と、初土俵以来初めて黒星先行と最悪の出だしとなった千代鈴。何とか連勝させた白星を先行させたかったが、四日目は鉄甲相手に左を差しながら寄り切られ、土俵を割るという三日目の若佑と戦った。五日目は対戦成績で6対

0と負けたことのない白閃光に引き落とされ、まさかの連敗。これまでは左を差してから盤石の寄りで相手を寄せつけられない相撲を見せていたが、今場所は寄り切れずに相手に土俵を回られ残されて負ける相撲が多く、本来の相撲が取れていない。



英 筏●(寄り切り)○西神門

鉄 甲○(寄り切り)●千代鈴



若ノ嶋○(寄り切り)●若 佑



綱乃花●(寄り切り)○西神門



鬼ヶ嶽○(寄り切り)●夢ノ花



宇治家●(寄り切り)○越境山

ここまで相撲を見る限り、相撲内容は横綱相撲で申し分ない。果たして、この流れに乗って横綱を掴み取るのか？中日以降に注目したい。

好調なのが関脇鬼ヶ嶽。四日目は夢ノ花を寄り切り、五日日には大神楽を引き落とし、三役陣ではただ一人5戦全勝とした。

先々場所が小結で9勝、今場所の成績如何では大関昇進という話を持ち上げる可能性もある。

平成26年の136回に大関から陥落し、十両まで番付を下げて一時は引退という声も出たが鍛練を重ねて復活。もし再大関という事になれば、11年振りの返り咲きとなる。

大復活劇となるのか？

鬼ヶ嶽とともに5戦全勝としたのは前頭14枚目と後がない越境山。何とか幕内に留まっていたという子力士が奮闘している。